

内容要約

本研究は児童の絵を児童の心のメッセージ（象徴），反映であると捉え，描画法を通して児童の心理状態を理解し，児童の成長を援助していくための試みである。

5回の描画法を試みることで，児童自身が絵に無意識の心理を浮かび上がらせ，みつめることができた。また，望ましい自己のあり方への援助によって児童が発達課題を乗り越えることができた。

【キーワード】 メッセージ 自己表現 発達課題 描画法 援助の工夫

目 次

I テーマ設定の理由	11
II 研究仮説	11
III 研究内容.....	12
1 描画法の特徴	12
2 描画の種類と実施方法	12
3 留意点	12
4 絵の診断について	13
IV 実践事例	13
1 児童の実態について	13
2 描画法の実践	14
3 考察	18
V 研究のまとめと今後の課題	20

発達課題を抱える児童の心理理解と援助

—教師による描画法を通して—

玉城村立玉城小学校教諭 與那嶺 啓 子

I テーマ設定の理由

児童を取り巻く社会環境、家庭環境、自然環境は年ごとに大きく変化し、児童はその影響を受け、いろいろな悩み、迷いを抱えている。私たち教師は早期にそれに気づき援助していかなければならない。そのためには児童一人一人をしっかりと理解していくことが重要になる。これまで児童理解のためのカウンセリングの研修を重ね実践に活かしてきたが児童の心理理解が十分にできないことがあった。

Aさんは思いやりのある優しい子だが、級友との些細なことをきっかけにパニック状態になり周りの机やバケツなどを蹴飛ばしたりするという衝動的行動と、校舎の裏の角等に隠れてなかなか出て来ないという行動が見られた。しばらくすると興奮状態がおさまリ、素直なAさんに戻るがその興奮状態の原因は本人にもよくわからないようである。その後、言語によるコミュニケーションを続けたが、児童の心理の理解は十分にできなかった。このように発達課題を抱える児童の心理理解の難しさは私たち教師の課題になっている。

Aさんは絵を描くことに積極的であり、図工の時間は一心不乱という状態でとても上手な絵を描いた。しかし、気になる色使いであった。

名張淑子は「子どもの絵には深層心理が内蔵されている。単色の色使い色と色の配色、筆圧、そして形が象徴する意味の解釈などを複合的に判断することで、子どもの深層心理が引き出されてくる」と述べ、浅利篤は「色彩選択の心理の根底には生理的原因がある」とも述べている。この児童の心理面により深く作用する描画法を教育現場に取り入れることにより児童の心理理解と援助に役立てたいと考えた。

そこで描画法を児童の実態に沿って試みることで、描画の分析から児童の心理が理解できるであろう。また、そこから浮かび上がる課題を共に見つめ、望ましい自己のあり方への援助と描画法の継続により、児童自身が描画の変容を通して自己洞察を深め、課題を乗り越えていくであろうと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

- 1 低学年の児童に沿った描画法を工夫し試みることで、児童が無意識の心理を描画に浮かび上がらせるであろう。また、その描画を分析することで児童の心理理解ができるであろう。
- 2 望ましい自己のあり方への援助と描画法を継続することで、児童自身が描画の変容を通して自己洞察を深め、課題を乗り越えていくであろう。

Ⅲ 研究内容

本研究は発達課題を抱えた児童への描画法を通した心理理解と援助の研究であり、その特徴と種類と実施方法、留意点、絵の診断については以下の通りである。

1 描画法の特徴

- ・描かれた絵に、無意識の心理が表出される。
- ・見守られつつ描くことにより、自己受容感を味わうことができる。
- ・描かれた絵を媒体にコミュニケーションが図られる。
- ・描かれた絵を筆圧、色彩、形態標識などの視点から分析・解釈することにより、描き手の心理理解ができる。

2 描画法の種類と実施方法

描画法の種類と実施方法は児童の実態に沿って高橋雅春・高橋依子の人物画、樹木画、バーンズ博士の家族画、円枠家族描画法、バックの家・木・人画、森谷寛之の九分割統合絵画、浅利篤の自由想画法を応用し、描画に対する意欲を高めるためにこれらの課題画に自由に加筆させる方法を試みた。

＜準備＞ 鉛筆、消しゴム、クーピー、A4 版画用紙

(1) 「九分割統合絵画」

- ・A4 版画用紙の画面を 3×3 に分割し、描く順序を渦巻き状にする。
- ・自由連想技法で心に浮かんでくるものをそのまま次々と 9 つの枠の中に描き込んでいく。
- *心に浮かんでくるイメージを自然に中心へ結集させる。
- *一挙に多くのイメージを把握することができる。

(2) 「人物画」

- ・1 人の人物を頭から足先まで描く。自分が考えた人を丁寧に描く。
- *描かれた人物を介して質問などを行うことにより、コミュニケーションが図れる。
- 例 「この人は何をしているの?」「この人は何を考えているの?」「この人は幸せ?」

(3) 「樹木画」

- ・木を 1 本描く。自分が考えた木を丁寧に描く。
- *木は本人や特定の人物やそれらの混合を象徴している。無意識の自分自身が感じているものを表現したり、その人に対して本人が抱いている見方や感情や欲求を表したりする。
- *描かれた木を介して質問などを行うことにより、描画を解釈するための資料が得られる。
- 例 「この木は何歳くらいですか?」「この木は元気ですか?」
- *加筆の描画より、さらに具体的な資料が得られる。

(4) 「家族画」

- ・本人を含めた家族を描く。人物の塗りつぶしや人物を描く順番、つぶやき、加筆の描画などから家族に対する心情を解釈。

(5) 「家・木・人画」

- ・家と木と人を 1 人描く。家には家庭が、木には意識されていない自分自身が、人には自覚している自分自身の感情や意識が表れる。

(6) 「円枠家族描画法」

- ・直径20センチの円を描く。中心人物を円の中心に描き、周りにそのイメージを描く。

(7) 「自由想画法」

- ・自分が考えたことを自由に描く。
- ・色の単語の意味、色彩標識の意味、形態標識などにより絵を診断。

3 留意点

- ・絵の上手下手は全く関係ないことを知らせる。
- ・描画中の間(15～20分)は、うなづきつつ、だまって見守る。
- ・児童のつぶやきを大事にし、だまったら笑顔で温かく見守る。

- ・描き終わった絵を介して、コミュニケーションを図る。
- ・居心地のいい時間が過ごせたかどうかを児童の表情からつかむ。

4 絵の診断について

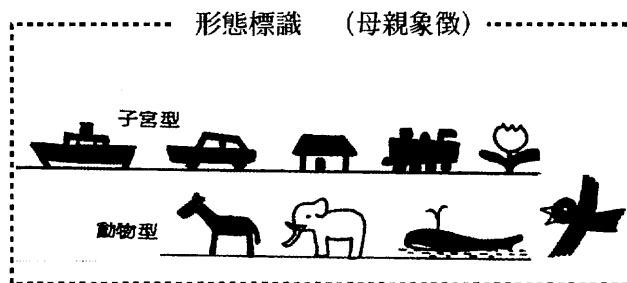
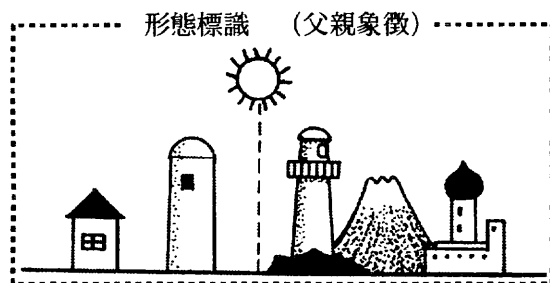
絵の診断は、浅利篤や香川勇・長谷川望の「色の単語の意味」、「色彩標識の意味」、「形態標識」に基づいて行う。表1や形態標識はその抜粋である。また、描画中のつぶやきや表情などの情報を含めてその診断にあたる。

表1 色の単語と色彩標識の意味

青	服従心・義務感・自制自立	緑	蘇生 疲労
黒	恐怖・抑圧・不安	黒と青	意地悪
赤	興奮・活動・不満・攻撃	黒と赤	母への要求
紫	疾病傷害・死の心理的影響	赤と青	嫉妬・競争



浅利篤・日本児童が研究会『原色子どもの絵診断事典』黎明書房



香川勇・長谷川望『子どもの絵が訴えるものとその意味』黎明書房

Ⅳ 実践事例

児童は、5回の描画法と教師の見守る援助やコミュニケーションにより、絵に無意識の心理を浮かび上がらせ、自分自身の気持ちを見つめ、変容することができた。描画法の実践は児童の心理理解に迫るための情報を収集し、その情報を児童の立場から眺める実態の把握から始めた。

1 児童の実態について

Aさんの実態を行動観察、児童理解テスト、家庭環境、描画の視点から眺めてみた。

<行動観察からみた発達課題>

学習の合間によく紙などで何かを作ったり怪獣の絵を描いたりしている。感受性が豊かで、作詩などに特に秀でている。級友とのトラブル等で、机をたおしたり、バケツを蹴飛ばしたりした後、校舎の裏の角に隠れてなかなか出てこないという行動が見られた。

<児童理解テスト・ソシオメトリックテストからみた交友関係>

学級の人間関係に対するAさんからの不満がみられる。学級の児童からのAさんに対する好感度が低い。担任との人間関係はかなり良い。

<家庭環境>

両親、兄2人、本人の5人家族。両親ともに教育熱心である。特に母親は子育てについは教育方針をしっかりとって臨んでいる。その母親が病気のため入院をしたが、現在は療養中。

<絵から診る発達課題>

図工の絵には空に向かって飛び交うたくさんの昆虫や鳥が描かれている。その激しいストロークと黒い色からは、不安とストレスが。赤と青の配色への固執から嫉妬が。空に向かって飛びゆく鳥(母親)はどこへ。また、落書き帳「怪獣の戦い」(図1・表1)からは、傷ついている本人が診られる。

これらの絵から、児童は病気の母に対する不安・不満の複雑な感情をストレスとして抱えていると思われる。

表1 「図工の絵」と「怪獣の戦い」の分析

「図工の絵」	
黒	不安
赤と青の配色	嫉妬心
昆虫	本人
大きい鳥	母
激しいストローク	ストレス
「怪獣の戦い」	
怪獣	母
子供怪獣（ペット）	本人

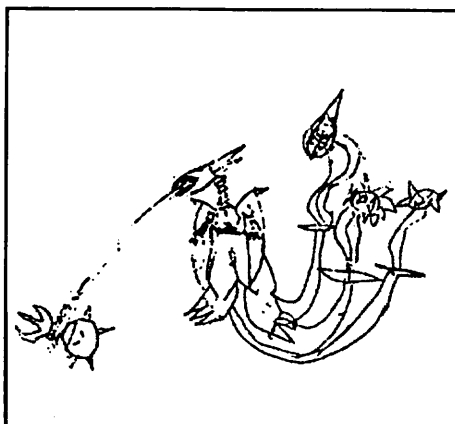


図1 「怪獣の戦い」



図2 「人物画」

2 描画法の実践

Aさんの描いた絵の分析からこれまで気づかなかったことに気づいた。それは児童の実態を母親・大人の立場に立って見ていたことである。絵を通しての児童理解は児童の立場に立った児童理解そのものであった。児童に寄り添い望ましい自己のあり方への援助を充実させつつ、描画法を継続し、その変容を試みた。

＜1回目＞

「人物画」「昆虫を探しに」（図2）では高い基底線（地面）で自分の存在をアピールしているが人物が小さく描かれ、自己実現の不十分さを表現している。昆虫を探すはずなのに描かれているのは母の象徴の大きい鳥。

自分が求めている母親との距離を感じ大きい鳥の母親に何とかして近づこうと地面を盛り上げ、その上にしっかり立って捕まえる準備をしている。

＜授業を通しての援助＞

絵から診た心情と児童理解テストとソシオメトリックテストから児童の学級・家庭における人間関係の不満がみえた。そこで、その「人間関係の改善」のための援助を学級活動の授業を通して次のように試みた。

(1) 題材 「心たんけん」

(2) 題材設定の理由

絵やその他の情報より、児童への「人間関係の改善」の支援の必要を感じた。そこで、両親に我が子の「長所メッセージ」を書いてもらい、親子がお互いの心を見つめ合う場面を設けることにより、家庭における人間関係が理解できるものと考えた。また低学年の児童にあったジャンケンゲームを取り入れることによる児童相互のふれあいから、学級における「人間関係の改善」ができるものと考え、題材「心たんけん」を設定した。

(3) 本時の指導目標

- ① Aさんを含めた児童が自分の親に対する気持ちやイメージを色と塗り方で表現することができる。
- ② Aさんが「友だちたんけんゲーム」を通してより多くの友だちと関わろうとする意欲を持つことができる。

(4) 授業の仮説

- ① 両親から「長所メッセージ」をもらい、その気持ちを考えることにより、児童が自分の親に対するイメージを色とそのタッチに表現することができるであろう。
- ② ゲーム性のあるエクササイズ「友だちたんけん」を通して、学級の児童がお互いに積極的に関わり

あうことの方向性を示す援助により、Aさんを含めた児童がより多くの友達と前向きに関わっていきうとする意欲を持つであろう。

- ③ 教師が自由な楽しい雰囲気づくりを工夫しつつ、授業を展開することで、Aさんを含めた学級の児童が成就感を味わうことができるであろう。

(5) 準備 ワークシート、筆記用具、クーピー、両親よりの我が子の「長所メッセージ」

(6) 展開

過 程	児 童 の 活 動	教 師 の 支 援
インストラクション (5分)	「先生の心探検」をする。 ・相手の目を見る。 ・表情を見る。 ・優しい気持ちで話を最後まで聞く。	・みんなの頑張ろうとする気持ちが見えることを伝える
エクササイズ ① (15分)	「親の心探検」をする。 ・自分の「両親よりのメッセージ」を読む。 ・親の気持ちを考える。 ・親への気持ちを「メッセージのカット」に色と塗り方で表してみる。	メッセージを読み終わっていない子の援助をする。
エクササイズ ② (15分)	「友達探検ゲーム」をする。 ・2人組みになる。 ・3人組みになる。 ・2人組みになる。 (質問ジャンケンをする)	・Aさんには相手の話を優しい気持ちで聞くよう助言する。
まとめ (10分)	「心探検」をして感じたこと、思ったことを「感想カード」に書く。 ・発表をする。	・感想を書き終えたら絵を描こう ・教師の感想をメッセージとして述べる。

(7) 授業の反省

- ① 多くの児童が感想カードを通し、交友関係についての前向きの感想をのべていることから、Aさんを含めた学級の児童に対し「人間関係の改善」へのある程度の援助ができた。
- ② 人間関係づくりの学習が楽しくできるために、ゲームを取り入れるなどの工夫をすることにより、Aさんを含めた学級の児童が授業に対する意欲と期待感を高めた。
- ③ Aさんに対する援助は学級における人間関係についてはある程度なされたが、家庭における人間関係についての成果はほとんど見られなかった。しかし、Aさんがこれまで絵に表出した不満・嫉妬の心理の原因に迫る情報のヒントがあった。
- ④ 両親からの我が子の「長所メッセージ」をもらった後のAさんは教師の期待とはほど遠い心情の表現をした。「心たんけん感想カード」のギザギザに切れたピカチュウの体からは、傷ついた本人が、また、「長所メッセージ」への色塗りからは赤いイルカと赤と青のスイカの模様から不満と嫉妬が読めた。この色彩に表出された心情がヒントになり、Aさんの立場から「長所メッセージ」を解釈してみた。「兄よりすばらしい〇〇になれるようにしっかりとがんばってください」の激励文は嫉妬と不満を刺激したのではないか。「兄と比較をされること」への不満があるのではないか。

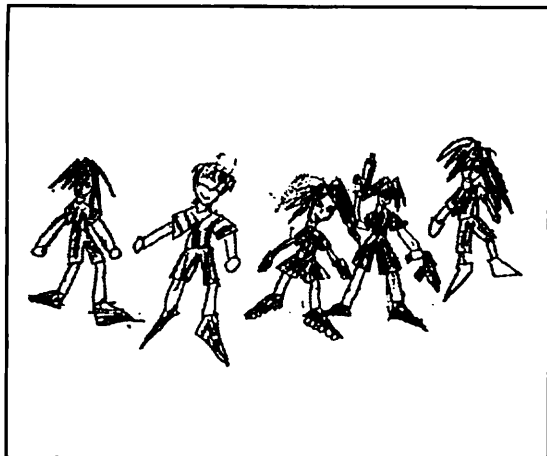


図3 「家族画」

《2回目》

「家族画」（図3）では自分を真ん中に描くことによって自己顕示欲を示しているが防御体勢。隣の兄に銃をもたせ、黒と青の配色（意地悪）を表出することにより、兄に対するストレスの解消を図っている。描くのをためらっていた母親を自分の隣に描写。その靴先の鋭さに本人自身が驚き、「こわい」とつぶやいたが、その後穏やかな表情になった。

＜援助＞「本当のことじゃなくてもいいのよ」の援助で家族の絵を自由に描かせることにより、（図3）の家族画にはっきりと嫉妬心の対象の兄を表現した。そうすることで、言いたくてもいえなかった不満を吐き出すことができたと思われる。

《3回目》

「家・木・人画」（図4）では自分が求めているものをより具体的に描写。ワニ（攻撃・不満）を閉じこめ、親鳥を雛鳥の巣の方へ。木の幹にはリスとその巣穴（傷つき求めている無意識の自分）があり、母親を待っている。防具をはめている人は、自覚の自分。苦しそうな表情の家（母）。

＜援助＞ 母親に対する不満の感情を閉じこめ、求愛の感情を全面に出した。児童のつぶやきを受容することでコウモリを夜から朝のコウモリへと変えた。さらに、自分が母親に望んでいることをひな鳥と親鳥の形に変えて具体的に表現。絵を媒体にコミュニケーションを図った後、樹木画に進んだ。

「樹木画」（図5）では親鳥を雛鳥の巣へ着地させ、これまで無意識の自分が求めていたものを具体的に描写。2羽の雛鳥の向きの違いが微妙な心理を表している。本人と兄の関係か。

＜援助＞具体的に表現された自分の夢の描画に満足気な表情の児童にあいづちをうち、そのよろこびを分かち合う。



図4 「家・木・人画」



図5 「樹木画」

《 4 回目 》

「九分割統合絵画」では紙芝居風に「りんごくんのぼうけん」（図6・表2）を創作することにより、自分が求めているものを素直に認め、まとめることができた。カエルやトンボに赤い色を表出することで、不満・攻撃・興奮などの感情の解消を図っている。紫のかえるは傷ついている本人。紫の鳥は病んでいる母。緑の鳥は回復・蘇生の母。紫・黒・緑の電車も病みから蘇生していく母か。

＜援助＞自分が考えたことを絵と文にしてもよいことを勧めることで、児童が素直な気持ちで自分の夢を紙芝居風にまとめることができた。また、自由に好きな色を塗らせることで病みの母への気遣いを表出することができた。描画を介したコミュニケーションの後、児童の希望により、「かえるくん」を創作。

「かえるくん」（図7）では3匹のカエル（兄弟・友達）が誘い合って遊んでいる。カエルのジャンプは本人のジャンプで自立の心理の表現と思われる。

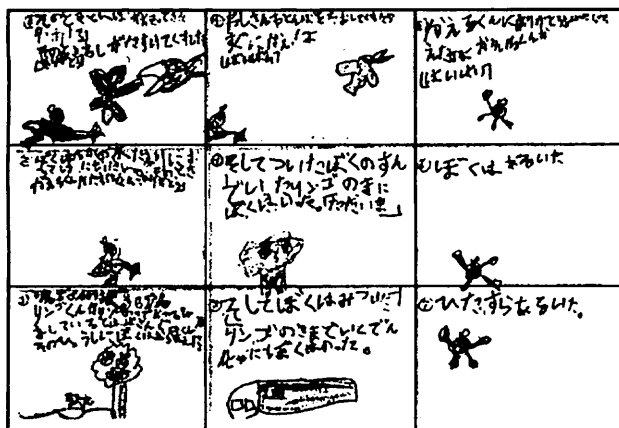


図6 「りんごくんのぼうけん」

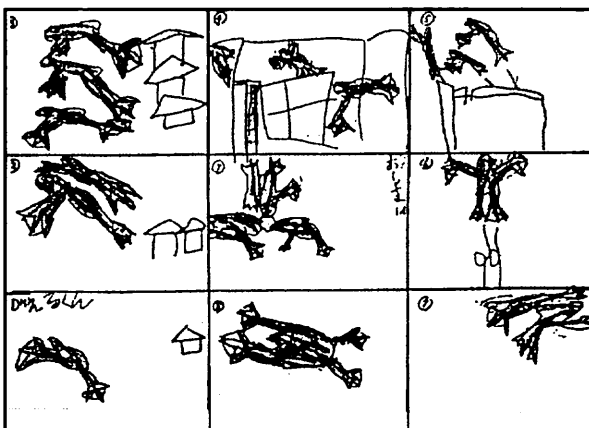


図7 「かえるくん」

表2 「九分割統合絵画」の分析

教師の働きかけ	描画全体・物語の創作	表情・つぶやき
「九分割統合」 9種類の絵が描けるように画用紙を9等分する。 描く順を決める（渦巻き状） ③ ④ ⑤ ② ⑨ ⑥ ① ⑧ ⑦ 「9つの絵を描こう」 「絵と言葉で表してもいいです」 うなずきつつ、 ずうと見守る。	「りんごくんのぼうけん」 ①リンゴ君がリンゴの木でおひるねをしていると葉っぱさんが「はっくしょん」。そのひょうしに僕は落ちてしまった。 ②僕は近くの水たまりに落ちてしまった。「もうだめだ」その時かえるくんが助けてくれた。「かえるくんありがとう」 ③その時とんぼがおそってきた。「たすけて」その時驚が助けてくれた。「ありがとう」 ④驚さんとはとんぼをたおしてくれたらすぐに帰っていったよ。「ばいばい」 ⑤かえるくん「ありがとう」をいったらこたえたのよ「ばいばい」 ⑥僕は歩いた。⑦ひたすら歩いた。 ⑧そして僕は見つけた。リンゴの木までいく電車に僕は乗った。 ⑨そしてついた。僕の住んでいたリンゴの木に僕はいった「ただいま」 「かえるくん」 9つの場面のカエルの絵。	「紙芝居にしてもいい？」 「同じかえるでも場面ごとに色を変えていい？」 「同じ鳥でも場面ごとに色を変えていい？」 「カエルの物語を作りたい」

《 5 回目 》

「円枠家族描画法」では自分のイメージの中にしっかりと母親と兄弟・友達が描かれている。防具をはずした本人のガッツポーズ（図8）。母親のイメージにはいくらか抵抗がある様子。然し、円枠外に子供怪獣の本人を描いた。（図9）「自由想画法」（図10）では母怪獣をととてもきれいに描くことにより母親の存在を身近に感じている心理が読める。戦いの炎の様子から対等な戦いと寄り添う子供怪獣から児童の母親に対する素直な気持ちが読める。



図8「自分のイメージ」



図9「お母さんのイメージ」



図10「自由想画」

3 考 察

(1) 色彩分析と変容

描画の色彩を不安・不満、嫉妬・傷、夢・希望の3つの視点から分析、その変容と援助をまとめると表3のようになる。児童はこれまで、図工の絵に、黒や赤と青の配色を好んで使ってきた。そのことから児童の不安・不満・嫉妬の心理状態がみえた。しかし、図3の家族画では両親に青の服を自分の服に緑色を使うことにより、再生・蘇生が見えてきた。

表3 色彩分析と変容 (◎とても良い○良い△ややよい×悪い)

図	不安・不満	嫉妬・傷	夢や希望	援 助
図工の絵	× ×	× ×	×	学級活動の授業「心たんけん」、人間関係の改善
図3	△ △	× ○	○	「本当の事じゃなくてもいい」自由、安心感を与える
図6	○ ○	○ ○	◎	絵を媒体にコミュニケーション、考えたことを言語にする。

これは学級活動の授業「心たんけん」で学級や家庭における人間関係の改善がある程度なされたものとする。両親からもらった「長所メッセージ」の片方「あなたが一番好きです。」が大きい援助になったものと思われる。また、描画前に「本当のことじゃなくてもよい」ことを知らせることで、児童が安心して、自由に隣の兄の服に黒と青の配色（意地悪）と持っている銃に黒を使い、嫉妬心とストレスを表出することができた。また、考えたことを言語にしても良いことを知らせることの援助により、児童が図6の「りんごくんのぼうけん」に自分の夢を素直に紙芝居風にまとめることができた。また、自由に色を塗らすことで、母親象徴の電車に緑・紫を塗り、病気の母親への気遣いを表出した。最後の場面では、「ただいま」と戻った母象徴のリンゴの木に緑、橙（求愛）を塗り自分の夢・希望を素直に表現できた。

(2) 描画の分析と変容

描画を不安・不満、嫉妬・傷、夢・希望の3つの視点から分析、その変容と援助をまとめると表4のようになる。落書き帳に描かれた図1から母の象徴の怪獣に一方的にやられ、傷ついている児童のメッセージをキャッチ。見守る援助と描画法を開始した。

1回目の図2の「人物画」にはまだ激しい不安・不満がみられたので、学級活動の授業の中で人間関係の改善の援助を試みた。

表4 描画の分析と変容 (◎とても良い○良い△やや悪い×悪い)

図	不安・不満	嫉妬・傷	夢・希望	援 助
図1	× ×	× ×	×	メッセージをキャッチ、見守る
図2	× ×	× ×	×	学活の授業「人間関係の改善」
図3	△ △	× △	△	児童のつぶやきを含めた受容
図4	○ △	△ △	○	絵を媒体にコミュニケーション
図5	○ ○	△ △	○	児童の満足げな表情に相づちを
図6	○ ◎	○ ○	◎	考えたことを絵と文に
図7	○ ◎	◎ ○	◎	作品のできばえを賞賛、認める
図8	◎ ◎	◎ ◎	◎	絵を媒体にコミュニケーション
図9	◎ ◎	◎ ◎	◎	母親についての教師の考え
図10	◎ ◎	◎ ◎	◎	児童の夢を母親に伝達

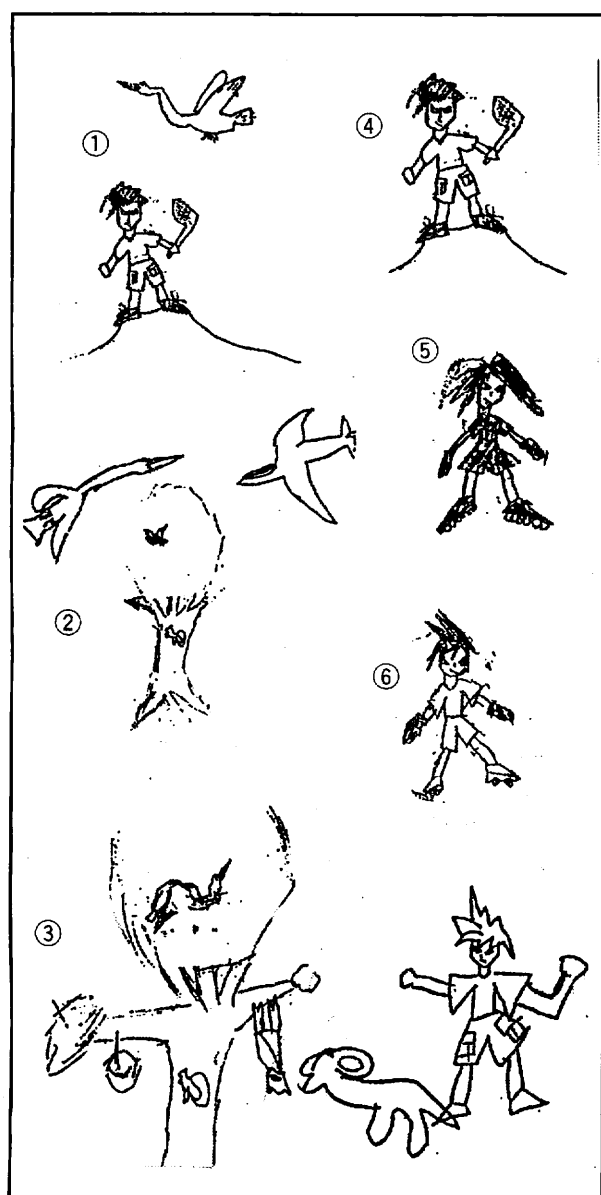


図11 (描画の抽出)

図3「家族画」では「母は描けないよ」「難しいから」と言いつつ描画を始めたが、自由に安心して描ける雰囲気をつくることで、4番目に自分の隣に母親を描いた。児童はこの家族画を描くことにはじめからいくらか抵抗を示したが葛藤の末、嫉妬の相手の兄も具体的に描画に表出した。

図4「家・木・人画」、図5「樹木画」では描画に大きい変容が見られた。今まで上に向かったり斜め上に向かって飛んでいた大きい鳥が小鳥の巣を目指し舞い降りてきたことである。この大きい鳥の舞の変化は図11「描画の抽出」の①、②、③である。また、ワニ（攻撃・不満）を閉じこめ、コウモリ（母）に朝を迎えさせ、静かにさせた。

図6「りんごくんのぼうけん」では、父の象徴のトンボを母の象徴の鷺に退治させることができ、自分を助け守る母親を表現した。また、考えたことを絵と文にまとめさせることで1人旅にでかけ、自力で目標の「母」のもとにたどりつく自分を表現した。

図7「かえるくん」の三匹のカエルは誘い合って遊ぶ自分と友達の表現であると同時に、三人兄弟の表現でもある。図6、図7からは不安、不満、嫉妬が消え夢・希望が大きく膨らんできた。描画を介したコミュニケーションにより言葉を発しつつ、自力で望ましい自己の物語を創作した。

5回目の図8、図9の「イメージ画」、図10「自由想画」には、美しい母怪獣に寄り添う幸せいっぱいの子供怪獣と防具のとれたガッツポーズの本人が描かれた。不安・不満から前向きに歩む児童の変容が図11「描画の抽出」の④、⑤、⑥、⑦に表現されている。

(3) 描画の変容と援助

描画の変容を色彩と描画の分析からまとめると表5のようになる。

この描画の変容から援助について次のようにまとめた。行動観察、図工の絵、落書き帳から児童の心のメッセージをキャッチし、描画法の1回目を見守る援助とともに始めた。2回目の描画法は言葉

表5 描画の変容と援助 (◎とても良い○良い△やや悪い×悪い)

図	色彩の分析 不満・嫉妬・夢	描画の分析 不満・嫉妬・夢	変容の まとめ	援助のまとめ
図1	× × ×	× × ×	×	・メッセージをキャッチ
図2	/ / /	× × ×	×	見守る
図3	△ × ○	△ × ○	△	・言葉かけ
図4	/ / /	△ △ ○	△	安心感
図5	/ / /	○ △ ○	○	・コミュニケーション
図6	○ ○ ◎	◎ ○ ◎	○	受容
図7	/ / /	◎ ◎ ◎	◎	・望ましい自己のあり方
図8	/ / /	◎ ◎ ◎	◎	の方向付け
図9	/ / /	◎ ◎ ◎	◎	・認める
図10	/ / /	◎ ◎ ◎	◎	誉める

かけや安心感を持たせることの援助により児童の心理理解がスムーズにできた。そこから見えた課題についての援助を学級の集団の中で試みた。

3回目の描画法ではコミュニケーション・受容中心の援助を、4回目に望ましい自己のあり方の方向付けを意識した援助を試みた。この3回目と4回目の援助により、児童の描画が大きく変容した。さらに、5回目の認める・誉める援助により、児童が前向きに課題に向かって歩み出す様子が図8や図10に表現されている。

これらのことから、教師が望ましい自己のあり方の援助と描画法を継続することにより、児童が描画を通して自己洞察を深め、発達課題を乗り越えたものとする。

V 研究のまとめと今後の課題

1 まとめ

- (1) 絵を児童の無意識のメッセージであると捉えることにより、落書き帳や図工の時間に描かれた絵等から児童の不安・嫉妬・心の傷などの実態をつかむことができた。
- (2) 課題画に自由に加筆させる工夫などの児童に沿った描画法を試みることで児童が無意識の心理を描画に表出した。
- (3) 色彩・形態標識等による描画の分析から、描画を通じた児童の心理理解ができた。
- (4) 見守り続ける、コミュニケーション、方向性、認める等の望ましい自己のあり方の援助と描画法の継続により、児童が描画の変容を通じ、家庭的な発達課題を乗り越えることができた。

2 今後の課題

その他の発達課題を抱える児童に描画法を通じた援助を試みていきたい。

<主な参考文献>

名張淑子	『絵に映された心のSOS』	同胞舎	1999年
浅利篤・日本児童が研究会	『原色子どもの絵診断事典』	黎明書房	1999年
浅利篤	『児童画の意味』	ブレーン出版	1979年
香川勇・長谷川望	『子どもの絵が訴えるものとその意味』	黎明書房	1997年
高橋雅春・高橋依子	『樹木画テスト』	文教書院	1998年
高橋雅春・高橋依子	『人物画テスト』	文教書院	1998年
森谷寛之	『子どものアートセラピー』	金剛出版	1995年
坂野剛崇	『傷つきやすさと暴力の時代 絵をコミュニケーションの媒体として』	月刊生徒指導7月号	2000年